

## 2 平成28年度鳥取県中部高病原性鳥インフルエンザ防疫演習

倉吉家畜保健衛生所 ○水野恵 下岸照和  
中部総合事務所 林原正好

### 1 はじめに

今冬は全国各地で高病原性鳥インフルエンザが発生し、本県でもいつ発生してもおかしくない状況である。今秋に実施した中部地区の高病原性鳥インフルエンザ防疫演習の概要について報告する。

中部管内の過去の防疫演習は、平成23年度は今回と同じサイズの埋却溝を掘削した埋却演習、平成24年度は実際の廃業養鶏農場で鶏の殺処分、消毒などを行った農場演習、平成25年度はほうきりサイクルセンターで行った死鶏の焼却演習、平成26年度は模擬農場で夜間に鶏の捕獲・殺処分等を行った夜間演習などである(図1)。

今回の演習では、集合場所、防疫基地など各施設の設置と運営、そして埋却演習を行った。

### 2 演習の概要

#### (1) 目的および演習項目

今回の演習の目的は、マニュアルの検証と動員予定者への作業イメージの付与、また家保主導から中部総合事務所の主導で演習を実施すること、の3点である。過去の演習は企画や準備段階、当日の運営のすべてが家保主導で行ってきたが、今回は準備段階から中部総合事務所の主導で実施した。

演習項目は、集合場所、防疫基地、消毒ポイント、備蓄倉庫など各施設の設置と運営、そして埋却の実地演習である。

参集範囲は、図3にある通りの各団体で、見学者を含めて、参加者は約163名であった。また演習地は図3にあるとおりの中部管内5カ所で行った。

#### (2) 日程

#### 図1 中部管内の過去の防疫演習実施状況

平成22年度	消毒演習	(動力噴霧器の操作)
平成23年度	埋却演習	(鶏4万5千羽、牛60頭規模の埋却溝掘削、消毒ポイント、検診、防疫服着脱)
平成24年度	農場演習	(実際の廃業養鶏場で、鶏200羽殺処分および汚染物品処理)
平成25年度	焼却演習	(ほうきりサイクルセンターで死鶏320羽の焼却)
平成26年度	夜間演習	(模擬農場で夜間に鶏捕獲、殺処分、農場消毒、防疫服等の着脱)
平成27年度	消毒演習	(動力噴霧器の操作)

#### 図2 概要

- 1 目的  
①マニュアルの検証(実効性、時間)  
②動員予定者への作業イメージ付与  
③家保主導から中部総合事務所の主導での演習へ
- 2 日程 10月20日(埋め戻し作業は21日)
- 3 演習項目  
①各施設の設置と運営  
集合場所、防疫基地、消毒ポイント、備蓄倉庫  
②埋却(掘削、シート敷設、埋戻)

#### 図3 概要②

- 4 参集範囲(参加者163名)  
中部管内市町、農協、生産者団体、建設業協会、森林組合、倉吉警察署、八橋警察署、県関係機関
- 5 演習地  
集合場所: 琴浦町東伯総合公園内施設  
埋却地: 琴浦町八橋字大成  
防疫基地: 琴浦町八橋字大成(廃業畜産農場)  
消毒ポイント: 倉吉市天神川左岸河川敷  
備蓄倉庫: 倉吉市旧河北中学校

演習日程は、5時に異常鶏の通報があり、6時に簡易検査陽性であったと想定し、午前中は設営開始メールを合図に、各施設で設営を行った。

備蓄倉庫班は、演習で使用する備蓄品を実際に各施設に配送した。

午後からは施設運営を開始、動員者30名が集合施設に集合し、受付、検診、防疫服を装着し、バスで防疫基地、埋却基地に移動した。

それぞれの基地でマスクやゴーグル、長靴などを装着し、埋却作業などの防疫作業に従事したのち、16時に集合施設にバスで戻り、片付け、終了とした。

消毒ポイント班は平行して、現地で防疫服を装着し、消毒作業を行った。

図4 演習タイムスケジュール

時間	全体	集合場所	防疫基地	埋却基地	消毒ポイント	備蓄倉庫
5:00	(想定) 異常鶏通報					
6:00	簡易検査陽性					
7:00	現地対策本部設置					
8:00	初動防疫計画発動					
8:40	(全体日程) 設営開始メール					
9:30	設営開始	設営	設営	設営	設営	トラック積込 配送
12:00	設営終了					
13:00	施設運営開始	動員者集合 受付 健康診断 防疫服着用 バスで出発			動員者集合 説明・防疫服着用 消毒作業	
14:30						
15:00	防疫作業開始		防疫装備装着 埋却作業見学	防疫装備装着 埋却作業開始	終了	
16:00				埋却作業終了 バスで出発		
17:10	終了	後片付け 終了				

### 3 演習風景

#### (1) 集合場所の設営および運営（検診および防疫服着用）

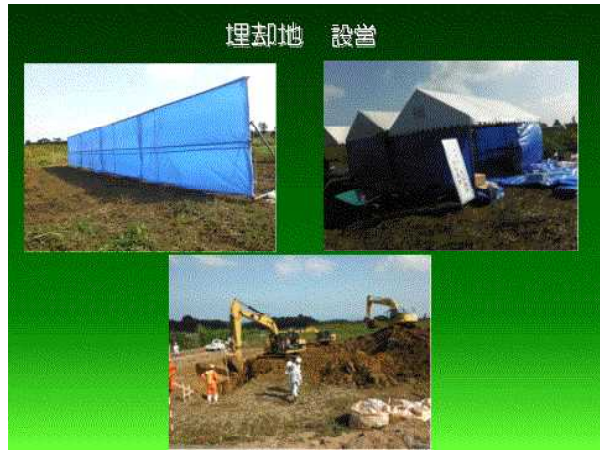
集合場所においては午前中に受付、検診会場、防疫服着用場所の設営を総務情報班、健康生活班がそれぞれ行った。午後からは動員者30名が集合し、受付、問診、健康診断を受け、その後、防疫服2枚を着用し、待機した。かなり時間が早く進行し、待機時間が予定より長かった。



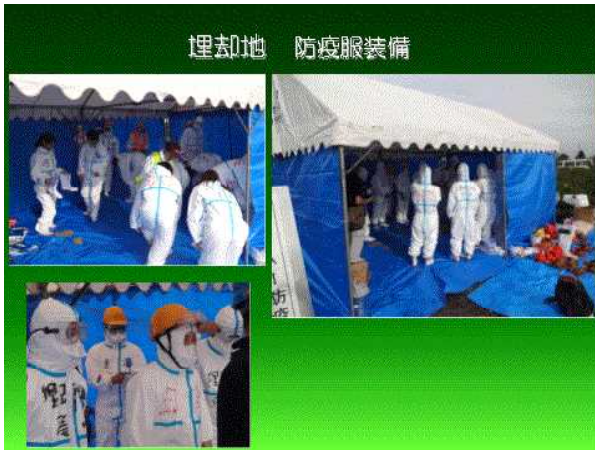
## (2) 埋却地の設営および運営

埋却地においては、午前中に現地農場班の埋却工事グループが、埋却溝の目隠しシートの設置や、ショベルカー3機を操縦して掘削工事を進めた。その一方で、埋却班の埋却地担当が、備蓄倉庫から到着した防疫資材を使って埋却基地の設営を行った。午後には動員者10名がバスで到着し、埋却基地で防疫装備を着用してから、完成した埋却溝に移動し、消石灰による消毒、ブルーシートの敷設、死亡鶏を入れたと想定したフレコンバックの投入等の埋却作業を演習した。

埋却地 設営



埋却地 防疫服装備



埋却地 埋却作業



## (3) 防疫基地の設営および運営

防疫基地においては、現地総合対策チームの現地農場班や、現地防疫チームの防疫基地派遣および発生地班の家畜防疫員らが、午前中に防疫基地の設営を行った。午後に集合施設から動員者20名が到着し、防疫基地で防疫装備を着用し、発生農場に移動した（今回の演習では埋却演習を見学。）

防疫基地 設営





#### (4) 消毒ポイントの設営および運営

消毒ポイントにおいては、午前中に備蓄倉庫から動噴などの機材の受け取りやタンクへの給水等の設営作業を行った。午後からは消毒ポイント班38名が集合し、防疫服を着用後、動噴の接続や、消毒作業などを演習した。



現地総合対策チームの物品調達班および現地防疫チームの家畜防疫員は、備蓄倉庫から今回の演習で使う備蓄資機材を仕訳し、トラックに積み込み、埋却基地、防疫基地、集合同所にそれぞれ配送した。

また現地防疫チームの記録担当は撮影用ドローン等を用いて埋却演習の進行を記録した。



## 4 演習成績

今回の埋却作業の所要時間は表1に示すとおりだった。試掘、掘削、家畜投入、埋却のそれぞれに要した時間は、過去の演習成績と比較して、ほぼ同じ程度であった。

また演習後の参加者からの意見集約では、次のような意見が得られた。

- ・目隠しシートの設置に課題が残った。設置方針などを再度検討すべき(埋却班)。
  - ・集合場所の施設は狭かった。本番はさらに人数が増えるため、他の施設を検討すべき(健康調査班)。
  - ・動力噴霧器の平時の点検が必須(消毒班)。
  - ・人事異動で人が変わるため、最低3年に1回は合同での実地演習を行うべき。
  - ・現在の体制は人員の余裕がない。動員者の予備要員が必要。
  - ・防疫服着用手順や「健康管理判断基準」等、ラミネート加工の平時の準備が必要(集合場所、健康生活班)。
- また感想としては、
- ・これまで施工業者に埋却作業への不安があったが、実地体験できて、不安が軽減された(埋却班)、等があった。

## 6 まとめ

今回の演習では、準備段階から各機関が集まって打ち合わせをし、また日に相当回数の電話での打ち合わせを連日重ねたお陰か、当日は想定より早く演習が進行した。また演習後の意見集約では、それぞれの担当班毎に、より具体的で専門的な、実地作業や実務、マニュアル等への意見が得られた。さらに演習後も、各機関が集まって施設の現地確認などをして検討しており、各機関のHPAI対策に対する主体性、連携がより強まったと思われる。よって今回の演習は目的を果たすものとなったが、今後も継続して今回の演習で課題にあがったところを検討していく必要がある。

表1 埋却作業の所要時間

●演習成績(プロイラー2万羽規模 タテ20×ヨコ8×高さ4m)

仮設進入路設置および草刈り	3時間			
重機運搬	1時間			
(時間)				
試掘	掘削	石灰散布・シート敷設	家畜投入・シート閉じ	埋戻
1.0	4.25	1.0		6

●過去の演習成績(肥育牛40頭規模 タテ20×ヨコ8×高さ4m)

	試掘	掘削	家畜投入	埋戻
中部	0.2	4.8	7分/5頭	3.4
西部	1.0	6.5	10分/6頭	6.5